

作文の部



理想の農業土木技術者を目指して

愛知県立稲沢高等学校 農業土木科 1年
赤塚 也 晃

小学校を卒業後、私は二年間、長野県下伊那郡阿智村に山村留学をしました。きっかけは、小学校五年生の時、自宅で見た一枚のチラシでした。阿智村での山村留学募集を知らせるこのチラシを見て、当時、十一歳を迎えたばかりの私の心は、何故か山村留学という言葉に吸い込まれました。普通のサラリーマンの家庭で生活をし、普通に学校に通い、普通に友達と遊ぶ。ありふれた普通の生活を飛び出して、自分が目指すものを探したいと思い、父に自分の気持ちを打ち明けました。

そして家族の応援を背に小学校を卒業後、阿智村へ行き、山村留学をする子ども達が生活する寮へ入りました。この寮には全国各地から小学生から中学生まで二十名程の子ども達がいきました。仲良く生活できるか不安もありましたが、すぐに心が打ち解けました。

入学した地元の阿智中学校は、まさに過疎地域の学校でした。いくつかの学校が合併したため、スクールバスで通う生徒達も多くいました。地域に根を下ろした教育を目標としており、地元を愛する精神、「郷土愛」をこの学校では学ぶことができました。

寮、そして中学校での生活は、愛知では味わうことができない多くのことを学びましたが、私にとっては特に寮での集団生活が強く心に残りました。寮では自然体験学習、共同生活を通して豊かな人間性を育むことをモットーにしています。実家の愛知ではたった一人の妹の兄でありましたが、この寮では多くの弟や妹、お兄さん、お姉さん達と暮らしました。寮の周りには水田や畑があり、米作りや地元の特産物であるトウモロコシの栽培にも取り組みました。標高千百メートルに位置するこの場所でも夏は暑かったです。えらくてくじけそうな時もありましたが、収穫した時の喜びは今でも忘れられません。農業の大切さや、協力してものを作る楽しさを強く感じることが出来ました。

寮では夏休み入ると全員で八ヶ岳を登ります。登山を通して私は山を中心とした環境や林業、治山をする土木にも興味が湧きました。

寮は中学校を卒業するとともに出ないといけないため、中学二年生の半ばに入り、自分が求める夢も徐々に深まり、このまま長野の高校に進学するか迷いました。高校は実家の愛知に進学することに決めました。

二年生が終わり、長野にも春の足音を感じ始めた頃、楽しく過ごした寮や学校、そして阿智村を離れました。一緒に生活してきた仲間達に、再会を約束して去りました。

農業や林業、土木に携わりたいとの思いは、受験勉強を進めるにつれ、強くなっていきました。幾つかの高校のパンフレットを見る中で、稲沢高校の農業土木科に目が留まりました。「土地・水・農業生産基盤・生活環境の改善など、自然と調和した土木技術を学習」と紹介されているのを見て、「あっ。」と頭の中にひらめきました。山村留学で過ごした阿智村のような山間部では、田畑は充分整備されてきたとはいえ、まだまだ作業性を考えると改善する必要があります。林業にしても、山に入ったり、木材を運び出したりするのに林道が必要であります。土石流の発生や土砂崩れなどによる災害から人々を守るためにも、土木を利用した環境の改善が今後も必要であります。生活の基盤をつくる上で大切な技術は土木だと確信し、地域に貢献できる農業土木技術者になろうと決意しました。

無事に高校入試を終え、念願の稲沢高校農業土木科に入学した今、毎日、勉強や部活に充実した日々を送っています。専門科目の「農業土木施工」の授業は、自分の将来の夢を実現するために、特に真剣に学んでいます。「農業土木施工」の教科書の中で、地域計画について書かれている部分には特に興味が湧きました。人口がこれから更に減少する過疎地域を盛り上げるためには、どの様な手順で地域を作っていけばよいか、自分でより学習を深めたいです。「食料・農業・農村基本計画」の中には「国民全体で農業・農村を支える社会の創造を目指す」と書かれています。農業土木を通じて、活気があふれる地域づくり、昔からの文化の伝承と新しい文化の創造、また食料と人間、地方と都会を結びつけたいと自分の夢はどんどん膨らんでいます。

私のこれからの夢は、三年間でしっかりと農業土木の技術を学び、卒業後は進学して更に農業土木を深く学ぶことです。そして地域づくりに参加し、人々に貢献できる農業土木技術者になることです。山村留学で過ごした阿智村にも、いつか貢献でき、恩返しをしたいです。

将来の夢に向かって一生懸命がんばります。